

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日平成19年11月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4072600903		
法人名	有限会社 コスモスケア		
事業所名	グループホーム コスモス今川		
所在地 (電話番号)	福岡県行橋市大字大野井477番地1 (電話)0930-24-9021		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(平成19年10月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤3人	非常勤6人 常勤換算5人

(2)建物概要

建物形態	併設(単独)	新築/改築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	階建て0	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100円			

(4)利用者の概要(月日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2			
要介護3	4名	要介護4			
要介護5	2名	要支援2		2名	
年齢	平均 84.5歳	最低	77歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	尾形内科クリニック	行橋グリーン歯科医院
---------	-----------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本有数のカルスト台地で有名な平尾台の裾野に広がる田園地帯の中に落ち着いた、たずまいの建物がグループホームコスモス今川である。ホームの名前が語るように庭やホームの中はコスモスの花に囲まれ、利用者や職員の穏やかな笑い声が聞こえてくる。オーナーのモットーである「家庭的な環境」「地域社会と交流を図る」を職員に理解してもらい、利用者も職員も家族の一員としてともに支えあって暮らしている。ホーム主催の餅つきや芋掘りは地域の方も参加し、地域の夏祭りには利用者と職員が参加し交流が図られている。オーナー、管理者、職員の信頼関係は見事で、利用者に対する思いが同じで、家族からも信頼され今後がますます楽しいグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では改善点が6件あるがオーナーと職員が一丸となって努力し、改善されている。「市町村との連携」「人権教育、啓発活動」「地域住民の協力を得ての避難訓練」などが今後の課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で会議し、管理者と一緒に検討し作成している。自己評価の意義を理解し、改善に向け取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、区長、包括支援センター職員(3人)、ホーム職員などで構成し、ホームの現状や行事予定を報告し、また、要望や質問、情報提供などを受け、双方向的会議として成果が出ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見は毎月支払いに来訪される時、利用者本人の心身の状態や、ホームでの暮らしぶりを写真や記録を見ていただき詳しく報告している。家族の要望を聞き、積極的に取り入れ、介護サービスの質の向上を目指し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	利用者の中に近隣の方がいて、家族を通して近所付き合いが始まりその輪がどんどん広がり、地域の一員として利用者も職員も温かく迎えられ、地区の夏祭り、ホームの餅つき大会、芋掘りなど活発な交流が図られ、地域との連携に繋がっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者がその人らしく生活することを支えていく理念を作成している。また、理念をホームの各所に分かりやすく掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎朝ミーティング時に職員全員で唱和し、再確認し、実践に結び付くように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員は、地域の夏祭りに毎年参加し、歓迎してもらっている。また、ホーム主催の餅つき大会、芋掘りなどに地域の方が参加し、楽しい交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は外部評価の意義を理解し、結果を全職員で共有し、質の確保、介護サービスの向上に向けて具体的に活用し、取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、利用者、家族、区長、地域包括支援センター3地区の職員、ホーム関係者で構成し、質問、意見、要望を受け双方向的な会議になるように工夫がおこなわれている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に出向き相談、情報交換をしている。		市町村職員の研修の場として提供したり、家族相談会を市と協働で開催し、問題解決に向けた取り組みなどが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は制度を理解し、利用者や家族に分かりやすく説明し、資料を用意し、ポスターなども掲示している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が毎月支払いのため来訪するときに、管理者や職員は、利用者の心身の状態や生活の様子を写真や記録を添えて説明している。状態変化の場合は電話で連絡している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や電話、意見箱などで、希望や要望が出やすい雰囲気づくりになるよう工夫している。また、家族の意見が反映されるように努力している。		ホーム便りを定期的に作成することが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間職員の異動はないため、利用者や職員は馴染みの関係が強く信頼関係ができています。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員採用は年齢の制限はなく、介護にたいする思い(優しく思いやりのある人)を重視し決めている。職員の休憩室や喫煙室を設け、生き生きと仕事ができる環境を作っている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	職員は利用者の人権を尊重し、思いやりの心を第一に考え、介助している。また、運営推進会議や地域の行事などで啓発活動に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修会受講を優先した勤務日程に変更し、できるだけ参加できるように工夫している。受講者は報告を兼ねた内部研修で発表し、職員全員が共有、サービスの質の向上に繋がる努力をている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で京築グループホーム協議会(15事業所)を立ち上げ2か月に1回会議を開催し、勉強会や情報交換で交流を図り、地域福祉サービスの質の向上を図っている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日帰り体験入居を実施し、利用者や職員と馴染みの関係をつくり、本人、家族の納得のもと入居へ繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員にとって人生の先輩であり、一緒に暮らし、学び、支えあう関係で、家族の一員として喜びも悲しみも一緒に共有している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の生活歴や希望、性格などを家族も交えて聞き取り、入居後の支援体制に生かしている。また、意向の表出ができない利用者には、関係者からの情報を把握し、利用者本人の視点に立って取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の毎日の暮らしぶりや、一人ひとりの要望、課題を見つけ、家族や医師、職員の意見を参考にして介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、また、状況変化に応じて家族、医師、職員と相談して介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊、通院、入院見舞、ドライブなどできるだけ利用者や家族の要望に応じて多機能に支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族からの希望のかかりつけ医に受診できる体制と、緊急時のホーム提携病院で臨機応変に対応している。また、往診体制もできている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族、医師と話し合う機会をつくり、家族の要望を聞き、できるだけ意向に応じていく努力をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりのプライバシーを尊重し、相手を敬う気持ちで介助している。また、個人情報の管理を徹底している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方が職員主導のペースにならないように注意し、利用者一人ひとりの心身の状態に合わせて自由にのんびりと過ごせるように配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は助け合いながら食事の準備をし、同じテーブルで同じメニューの食事を楽しそうに摂っている。また、利用者のほとんど全員が食欲旺盛である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月、水、金に行い、利用者の希望を取り入れて、曜日や時間帯を変えて入浴している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション、地域行事の参加、花壇、畑仕事、張り絵、カラオケ、料理、配膳、下膳、洗濯物干しなど利用者一人ひとりの希望や身体機能に合わせて役割分担をし、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、畑仕事などできるだけ外出する機会を取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けていない。夜勤者が一人になる時間まで鍵はかけずに自由に出入りできるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防、避難訓練は通報、誘導、避難、消火方法を熟知している。避難口は4か所ある		地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の催しの呼びかけを運営推進会議などを通じて協力要請することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー計算済みの食材を使用して料理している。食事の摂取量は記録しているが水分摂取の記録はない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長い廊下の先の居間は食堂と畳の間があり、利用者が落ち着いて過ごせるソファも用意してある。また、玄関横のスペースに長椅子を持ち込み一人ひとりが穏やかに過ごせる空間がある。また、利用者と職員で作った張り絵は見事で眺めていると時間を忘れてしまいそうである。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室は、個性的でその人らしい馴染みのものを持ち込み、落ち着いた雰囲気がある。		